

令和4年10月吉日発行

た ん ぼ ぼ

発行所 社会福祉法人 たんぼぼの会

〒761-8081

香川県高松市成合町1491番地1

TEL 087-815-7770

FAX 087-815-7771



たんぼぼ

VOL. 14



令和4年5月6日 国営讃岐まんのう公園にて

先人は経験豊富

社会福祉法人 たんぼぼの会

理事長 濱田 和之

令和4年9月14日四国新聞にこんな記事が

「赤ちゃん寝かしつけ」

「泣いたら抱っこ歩き5分」

理化学研究所などのチームが、国内外の生後7か月以下の赤ちゃんとその母親を対象に行った実験から、結果をまとめ、13日付けの米科学誌に発表した。と、

要は、泣いている赤ちゃんを泣き止まして、寝かしつけるには、5分から8分抱っこ歩きして、ベッドに寝かしつける。

あー、そうだったなあと思いつつ、そんなことデータを取って、発表するようなこと?とも。

私は、とつくに子育てを終了し、そんなことも関係なく生活しているが、若い世代の新米ママやパパは、赤ちゃんとの時間が、自分の思うがままにいかず、赤ちゃんに振り回され、イライラしたり、ブルーになったりしているのかもしれない。

そもそも赤ちゃんって、泣くことが仕事だと思っ
ていますが、なぜ、泣いているのかというと
「お腹がすいた」か「おしっこやう〇ちが出て、
気持ち悪い。」か「眠たい。」か「暑い、寒

い。」などの不快感で、分かりやすいといえ
ば分かりやすいものです。

ただ、私の子供が小さいころには、お爺ちゃんやお祖母ちゃんが心配のあまり、よく助けてくれたもので、そんな中、そうか、こうすれば、上手くいくのかと思わせてくれるような、上手な関わり方を見せてくれたものです。

そんな関わり方の中に、泣き止まし方やあやし方を学び、愛情深く一緒に育ててくれたことを思い出しました。

今の世の中、新型コロナウイルス感染症での影響もあるのか、人間関係も希薄になり、孤独を感じる人も多くなっているということもあるのでしょう。

周りの人から、教えてもらったり、助けてもらったりすることが少しずつ少なくなり、ネットで調べれば答えは、大抵出てきます。

なので、赤ちゃんの泣いたら抱っこ歩きのような研究でも取り上げられる時代になってしまったのかなあと思います。

本来、子育てって、親の思い通りにいくわけもなく、親の人生でもなく、そもそもその子の人生。親は、子供の応援はしてあげられるが、やるのは、その子。今の時代の多くが、子供の人生を親が支配、

あるいは干渉しすぎているような気がしてならない。

私は、よくこういうことを言います。皆さんもよく耳にしていることではあると思いますが、

「親が育てたとおりに子供は育つ。」と

子育てで真最中の方は、是非、先輩の方に子育てで悩んでいることがあるならば、相談してみてください。たくさんの方の成功、失敗談を持っているはず。

そして、そんな生活の困りごとがなんでも話せる環境って素敵ですね。たくさんの方の会話の中に子育てのヒントがあり、それは、強いては、今の職場や日々の子供との関わり方での悩み事と共通するものがあるかもしれません。

私は、子育てと福祉施設での利用者支援は、よく似たものだと思います。

いかにその利用者を愛おしみ、真剣に関わっていくか、そして、そこに専門職としてのエッセンスが加われば、利用者との良い関係性をうみだすことができるのではないかと思います。

また、そのことで、第六感の優れている利用者の方々は、すぐ感じ取ってくれます。

だから、利用者支援も同じで、親や職員が関わったように利用者も成長し、また、応えてくれると思っ
ています。

これからも、たんぼぼの職員全員で誠心誠意、一人ひとりの利用者を大切にするために、保護者やご本人、そして、職員同士で話し合い、利用者の方が、より充実したたんぼぼでの生活が送れるよう見守り、支援していきたいと思
います。

私の得意なこと

うどん作業室職員一同

同じ能力をもっているとは限りません。数の計量

を済ませてすぐに代わりに拭きに來ます。7人で

が得意、集中力を切らさずに取り組める、最後まで

協力し合えるチームとしての姿が見られます。

で責任をもって仕事ができる、周りを見て素早い

7人のもっている力、自信、得意なことをうど

1杯のかけうどんが出来上がるには、たくさん

行動ができる、毎日、一日も欠かさず掃除ができ

ん作りという形で表現し、毎週水曜日にお客様や

の工程があります。粉をふるう、混ぜ合わせるた

る等七人七色の特技や持っている力を色々な作業

ご家族に提供しています。職員間では、利用者の

めの塩水作り、粉と塩水のミキシング、完成した

場面を設定し提供することで、発揮することがで

為に何ができるか、意思決定や環境設定を行い、

生地を踏んで鍛える、茹で上がった麺にかける出

きます。自分でやってみてできた時は、「出来

利用者が出来ることを実現できるように日々話し

汁の材料、浄水の計量などがあります。さらに、

た！」ととても嬉しそうな表情で話してくれます。

合い、支援へとつなげています。

これらの工程を行うために細かな作業もたくさん

そして、帰りの会で「〇〇ができました、頑張リ

また、みんなで意見を出し合い、新作メニュー

あります。煮干しの処理、道具の洗い物、必要な

ました！」と自信をもってみんなに報告をします。

開発も行っています。

布巾をたたむ、うどん営業に向けてのセッティン

仲間が休んでいる時は、「〇〇さんどうしたん

今後ともワークプラザ・たんぼぼの思いが詰ま

グなどです。

かいの」と心配したり「今日は代わりにするわ」

った熱きうどんを提供して参りますので、どうぞ

うどんは一人の力で作ることはできません。う

と休んでいる人の分までフォローをしたりします。

よろしくお願い致します。

どん作業部屋の利用者7名、色々な職員の力が必

特に印象的なのは、うどん営業時、同じお盆拭き

要不可欠です。しかし、7人すべての利用者が、

をしている仲間が休みの場合、何も言わずに食事

< うどん職人の仲間たち >



かがわ漆器販売開始

2022年から、さぬきうるし sinra とコラボレーションし、ワークプラザ・たんぼぽでも漆器の販売を始めました。どれも心を込めて、丁寧に作られた品物です。たんぼぽにお越しの際は、どうぞ手に取り、使い心地の良さを実感いただければ幸いです。





象谷重箱(小)

お値段 8,800円也

第4回三井ゴールデン匠賞 奨励賞受賞者

さぬきうるし *Sinra* 漆職人 松本光太氏作

唯一無二の一品ものです。

あなたの日常にそっと置かれた重箱。

その中にあなたの大切なものを入れてみてください。

そして、あなたの夢もいっぱい詰め込んでみてください。

松本氏が思いを込めて作り上げた象谷塗を発展させ
詫び寂びのある夜の中に登りゆく満月の暈。

その蓋を開けると時は移り変わり、朝の光を放つか
の如く素晴らしい日々が始まる。

象谷重箱から夢をのせて。

香川漆芸研究所修了生の作品展示について



香川県漆芸研究所にて、3年間の課程で習得した技術を駆使して制作した、研究生の修了作品を3点お借りし、たんぼぼのショーケースに展示しております。たんぼぼにお越しの際は、ぜひ、ご覧いただき、香川県の漆の良さをご堪能いただければと思います。

2022 行事あれこれ



春の遠足 峰山公園にて



ケーキ教室 ルーウ'にて



初詣 田村神社にて



食事マナー



プール学習





3年越しの新年会 国際ホテルにて



自衛消防訓練 防災センターにて



<年間行事計画>

月	事業所内	事業所外
10		お楽しみ外出
11	マナー講習会	秋の遠足
12	餅つき大会、事業所内大掃除	クリスマス会
1	書き初め大会	初詣・新年会
2	自衛消防訓練	施設交流ホリソク大会
3		アトリンク
4	衛生講習会	春の遠足
5	市長訪問	カフェタイム
6		ソフトボール大会(代表) ソフトバレーボール大会(代表)
7	自衛消防訓練	プール学習
8	事業所内大掃除	
9	災害時対応訓練・食事	食事マナー講習会
誕生会 毎月1回		バイタルチェック 毎週1回

<篤志ありがとうございました>

令和3年1月から12月

敬称は略させていただきます

安部 勲	石田 守尚	澤田 あかね	富尾 勇	早川 和弘	山下 千穂
太田 絵里	大森 良二	塩田 昭二	中島 達也	林 英子	和田 京子
飯間 仙三	三好 優	白井 博文	高見 祐慈	藤澤美恵子	脇谷 哲郎
飯沼 フミエ	金本 健司	末金 耕一	野菅 竜樹	宮武 孝	秋山 佳弘
池田 守	菊本 實	菅 純子	重崎 順次	向井 愛	濱谷 はつ子
野村 敏男	熊野 静子	小東 典子	橋本 千秋	濱田 大幹	土岐 芳通
池尻 光利	黒田 ひとみ	造田 一一	橋本 康代	村川 光男	八木 和美
引田 敦子	小池 清	高橋 秀典	濱田 和之	森野 誠	佐藤 剛平
ワークプラザ・たんぽぽファミリー会					

※令和3年度の苦情は、7件ありましたが、解決いたしました。

<高松市共同募金会より> カラオケセット・swiich・クリーナー2台ご寄付いただきました。



<編集後記>

来月サッカーのワールドカップがカタールで開幕します。2002年、ハガキを500枚書き、携帯電話の充電がなくなるまでリダイヤルを繰り返し、ようやくチケットを手に入れて大阪と茨城にいった年からはや20年の月日が流れました。小学5年の息子も昨年からはサッカーを始め、たんぽぽでも若い職員さんが中心となって利用者さんと共に毎日2階のコンパクトな人工芝グラウンド?でミニゴールを使ってサッカーをしています。

いつもは、運動がおっくうに思う方もサッカーボールを追うと生き生きとした表情で自然と走り出し、ドリブルシュートを決めてガッツポーズをする姿を見ながら、サッカーの魅力を再認識させられる今日このごろです。スポーツの秋、急な運動で怪我をしないように、ゆっくり少しずつ体を動かしましょうか。 (Nori)